

# 職員数の削減は

町長

## 職員が少なすぎる



近藤 大介 職員

【近藤】本年度は、第3次大山町定員適正化計画の最終年度だが、目標の達成状況は。また、第4次計画はどうするか。

【町長】4月1日現在の職員数は210人で、計画目標の197人より13人多くなっている。第3次計画を引き継ぐのではなく、人件費全体で管理していきたい。

【近藤】本年度は18人の大量採用をしたが、来年度の採用予定は。また、退職者の再任用の状況は。

【町長】10人が退職見込みのため、10人前後を採用する予定である。退職者は、現在11人を雇用している。

【近藤】計画に沿って、職員数を削減すべきでないか。

【町長】現状の仕事量に対し、職員が少なすぎる。第1次計画の目標値221人より下回っている。

# サーファーとの連携は

町長

## 実態調査を行う



波に乗って海を楽しむ

【近藤】大山町には県外からサーフィンに来る人が多く、町内での買い物、飲食等、一定の経済効果がある。年間何人くらいサーフィンに来るか、トイレや駐車場などサーファーがどのような環境整備を求めているか、実態を調査が必要と考えるがどうか。

サーファーをターゲットにした移住定住の取り組みは。

【町長】実態調査を行う。移住定住の取り組みより、繰り返し来てもらえる取り組みを考えたい。

# 観光局の役割は

町長

## 体験型観光の商品づくり



成果が問われる観光局

【近藤】大山恵みの里公社と大山観光局は、合併当初の総合計画で町の活性化をけん引する組織として位置付けられていたが、思うような成果を上げていないと考える。公社、観光局にどのような役割を期待しているか。

【町長】大山恵みの里公社の目的は、町内産品を利用した外貨獲得と雇用創出で、今もその役割を期待している。観光局には、大山町の自然・歴史・文化・食を多くの人に体験してもらうための商品づくりを期待している。